

第18回教育委員会（定）

開会日時 平成29年 9月 29日（金） 午前 10時00分
閉会日時 午前 10時47分
開会場所 教育委員会室

出席者

教 育 長 中 川 修 一
委 員 高 野 佐 紀 子
委 員 青 木 義 男

出席事務局職員

事務局次長	矢 嶋 吉 雄	地域教育力担当部長	松 田 玲 子
教育総務課長	木 曾 博	学 務 課 長	三 浦 康 之
生涯学習課長	水 野 博 史	地域教育力推進課長	石 橋 千 広
指導室長	栗 原 健	教育支援センター所長	新 井 陽 子
新しい学校づくり課長	佐 藤 隆 行	学校配置調整担当課長	大 森 恒 二
施設整備担当副参事	荒 張 寿 典	中央図書館長	荒 井 和 子

署名委員

教育長

委 員

午前 10時 00分 開会

教 育 長 おはようございます。本日は、2名の委員の出席を得ましたので、委員会は成
立いたしました。

なお、松澤委員及び上野委員からはご欠席の連絡が入っております。

それでは、ただいまから平成29年第18回の教育委員会定例会を開催いたし
ます。

本日の会議に出席する職員は、矢嶋次長、松田地域教育力担当部長、木曾教育
総務課長、三浦学務課長、水野生涯学習課長、石橋地域教育力推進課長、栗原指
導室長、新井教育支援センター所長、佐藤新しい学校づくり課長、大森学校配置
調整担当課長、荒張施設整備担当副参事、荒井中央図書館長、以上12名でござ
います。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、青木委員にお願いいたし
ます。

本日の委員会は、1名から傍聴申し出がなされており、会議規則第30条によ
り許可しましたので、お知らせいたします。

○報告事項

1. 平成30年度当初予算編成について

(総-1・教育総務課)

教 育 長 それでは、報告事項を聴取します。報告1「平成30年度当初予算編成」につ
きまして、教育総務課長から報告願います。

教育総務課長 それでは、資料「総-1」に基づきまして、平成30年度当初予算編成につい
て、説明申し上げます。

資料の2ページ目でございます。

9月5日付で副区長依命通達ということで、平成30年度における予算・組織
・職員定数に関する基本方針が出されてございます。

内容を少し説明いたします。

平成30年度は、「いたばしNo.1実現プラン2018」で掲げる目標達成
の集大成とすべき最終年度であり、次期実施計画等に向けての準備、助走の年で
ある。

同時に、子どもの貧困対策、あるいは高齢者対策の推進、多額の経費負担が見
込まれる公共施設の再構築など、スピード感を持って取り組まなければならない。

また、経済の認識ですが、日本経済は緩やかな回復基調が続いているが、それ
に基づいて、特別区民税の増収は見込まれるものの、各種交付金が減収の見込み
であるなど、歳入環境の改善が望めない状況にある。加えて、児童相談所の整備、
都市計画事業の進展などによる歳出の膨張により、今般の財政運営は非常に厳し
い状況が想定される。

このような認識のもとで、施策の重点化を推し進めるとともに、組織横断的な
取組による実効性の高い施策展開につなげていかなければならないということで

す。

そのために、行財政改革を一層強力に推進し、従来にも増しての無駄の排除や創意工夫等、あるいは選択と集中を図って、区の持続的な発展を継続していかねばならない。

そのような認識に基づきまして、今般、教育委員会でも、平成30年度の当初予算編成方針を策定したものでございます。

資料の4ページ目でございます。こちらが平成30年度の板橋区教育委員会事務局当初予算編成方針です。

1、各事務事業経費の積算についてです。

(1) 既存事業経費については、選択と集中の視点に立ち、事業の意義、目的、必要性を見極め、教育委員会事務局内で重複した事業がないか、組織横断的に実施することでより効果のある事業がないか、課題を整理し、積極的な見直しを行うこととしております。

続いて、(2) 新規事業及び拡充事業経費です。

スクラップアンドビルドを前提とし、既存事業の効果検証を行い、廃止・見直しを含め、事業内容を比較・検討した上で、的確な予算を計上することとしております。

2、学校裁量予算及び学校令達予算です。

平成30年度は、29年度当初予算における児童・生徒1人当たりの額と同額で要求する。

以上のような予算編成方針に基づきまして、今後、当初予算の編成作業を進めてまいります。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

2. 平成29年度 板橋区中学生海外派遣事業の実施報告について

(総-2・教育総務課)

4. 平成29年度 板橋区版「英語村」実施報告について

(生-1・生涯学習課)

教 育 長 それでは、報告2「平成29年度 板橋区中学生海外派遣事業の実施報告について」及び、次第の順番とは前後しますが、報告2と関連が深いことから、報告4「平成29年度 板橋区版「英語村」実施報告について」、教育総務課長及び生涯学習課長から報告願います。

教育総務課長 それでは、はじめに、平成29年度板橋区中学生海外派遣事業の実施報告につ

いて説明いたします。

資料「総-2」をご覧ください。

この事業については、このたび全てのプログラムが完了したため、その実施結果について報告するものでございます。

なお、現地からは、生徒23名全員が病気、けがなく帰朝したことを報告申し上げます。

1、事業の内容から5、事業経費については記載のとおりでございます。

続きまして、資料の2ページ目でございます。

6、現地でのスケジュール、資料の3ページ目、7、事前・事後研修のスケジュールについても記載のとおりでございます。

なお、事後研修につきましては、8月29日にマレーシア人留学生との異文化交流を行うとともに、各校での成果発表プレゼンテーション資料原稿を作成しております。

これに基づきまして、11月7日には、英語の集いで海外派遣生徒の代表3名によるプレゼンテーションを実施する予定でございます。

続きまして、資料の4ページ目から本事業のアンケート結果を載せてございますので、少し説明させていただきます。

まず、質問1、「海外派遣事業」に参加する前と参加した後の自分の気持ちを教えてください。

①、将来、国際交流や異文化交流にかかわることについてです。

A「興味・関心がある」と回答した生徒は、参加する前が14名に対して、参加した後は21名と大きく増加しているところでございます。

続きまして、資料の5ページ目です。

②、英語についてです。

A「英語が好きである」と回答した生徒は、こちらも参加する前が14名に対して、参加した後は21名と大きく増加しているところでございます。

続きまして、資料の6ページ目です。

質問2、「海外派遣事業」に参加してみて、自分のどんなところが変わったと思いますか。

A「将来は英語を使う仕事ができたら良いと思った」、18名。

C「海外への興味・関心が今までよりも高まった」、19名。

D「英語のコミュニケーション力を高めていきたいと思った」、22名。

E「英語がもっと好きになった」、18名というところです。

一方で、B「日本のことをもっと海外の人に知ってもらいたいと思った」について、回答した生徒が9名にとどまっているところは、今後の工夫が必要であると考えております。

質問3、「海外派遣事業」への参加を同級生・後輩に勧めたいですか。

A「必ず勧める」、B「勧める」について、回答した生徒が計22名と大多数を占めております。

その内容につきましては、まず、A「必ず勧める」と回答した生徒ですが、一

番上の丸印、今までは自己主張ができなかったということですが、この事業に参加して、少しは自分でスピーチしたりすることが楽になった。何かを変えたいと思う人は、是非、参加すべきだと思った。

次の丸印です。

英語ができなくても、一生懸命に知っている単語を言うだけでも伝わるし、外国の文化を理解することができるから。

次の丸印です。

自分の中で東南アジアに対する考え方が変わったから。

最後の丸印ですが、たくさんの事を学べて、自分の考え方も変わったから、というところです。

B「勧める」と回答した生徒についても、「何よりも世界観が変わりました」、「異文化への興味や英語を学ぶ意欲を持つために良い機会だった」、「国際理解ができ、自分を成長させ、変わることができたから」というような意見になっています。

資料の7ページ目でございます。

一番上の丸印です。

「区や学校の代表として、このような事業に参加できる機会は人生に二度とないと思うから」というような意見がありました。

一方で、C「あまり勧めたくない」と回答した生徒1名ですが、食べ物の好き嫌いや、環境、スケジュールが厳しいというような実感があつたのかもしれませんが。

質問5、自由意見です。

「派遣生徒自身の成長や成果について」、一番上の丸印ですが、「たくさんの成長を感じることができました。多くの苦労、思い出がありました」。

また、4つ目の丸印ですが、「自分自身の考え方が少しずつ変わっていくことが面白かったです」。

次の丸印です。

「事後研修で、英文を書く時に、前よりも英単語を覚えていて、海外派遣をした成果が出ました」。

最後の丸印ですが、「これから発表や英語の集いで色々な人に伝えて、次の代も続けられるように頑張ります」という意見もありました。

また、「事業への要望」について、2つ目の丸印ですが、「食事中は英語をしゃべってほしいと伝えておいて欲しかったです」という意見がありました。中国系のご家庭で、中国語をしゃべっていたというような話も聞いております。

次の丸印ですが、「もう少し時間に余裕があれば良いと思いました」。

資料の8ページ目でございます。

「その他」の意見で、一番上の丸印ですが、「このメンバーで1期生として参加できたことは一生の思い出になりました」。

次の丸印です。

「たくさんの方々に支えてもらい、応援してもらいました。人生最高の経験で

した」。

最後から2つ目の丸印ですが、「英語や海外に興味があったので、その望みをかなえてくれたことをとても感謝しています」。

最後の丸印ですが、「充実した6日間を送ることができました。第2回目もあることを願います。次の人にも同じような経験をしてほしい」というような意見でございます。

おおむね良好なアンケート結果だったと認識しております。

説明は以上です。

生涯学習課長 平成29年度板橋区版「英語村」の実施報告について、ご説明させていただきます。

資料は、「生-1」をご覧ください。

この英語村事業でございますが、小中学生のグローバル人材育成事業の一環として、英語を使って外国人講師とともに海外生活を疑似体験することで、学習意欲の向上と国際的な視点を育むことを目的として実施いたしました。

コースは3種類でございます。

小学生コース、中学生一般コース、中学生レベルアップコースでございます。

日時、会場、参加状況でございますが、資料の1番のところです。

(1)小学生コースですが、中台、仲宿の地域センター、高島平区民館の3カ所で実施いたしました。

定員30名のところ、応募が52名から79名あったことから、抽選に漏れた方につきましては、中学生コースのまなぼーと大原会場に2日間で12名プラス11名、計23名を振り分けて実施したところでございます。

結果といたしまして、参加した小学生は107名となっております。

(2)中学生一般コース、(3)中学生レベルアップコースですが、ともに会場は、まなぼーと大原、まなぼーと成増の2カ所でございます。

参加した中学生は、一般コース76名、レベルアップコース48名となりました。

次のページの4番、実施内容でございます。

小学生コースでは、小学5・6年生を対象に、ゲームや入国審査体験などのプログラムを実施いたしました。

中学生一般コースでは、ゲームのほかに、英語による道案内、スピーチなどにも挑戦いたしました。

中学生レベルアップコースでは、海外旅行、ホームステイを想定して、空港・食事・ショッピング・ホストファミリーとの会話等のシーンで使える英語を体験したところでございます。

次のページの5番、実施結果、参加者アンケートでございます。

「英語村」に参加する前と参加した後の気持ちの変化について尋ねたところ、英語が「好き」、「どちらかと言えば好き」と答えた方が、小学生では48.8%から79.8%と31ポイント上昇したところでございます。

中学生一般コースでは、25ポイント、中学生レベルアップコースでは、21.7ポイント上昇いたしました。

次のページ、参加者の気持ちの変化に関する問いでございます。

「英語をもっと話せるようになりたい」、「英語がもっと好きになった」、「英語を話したり聞いたりするのが楽しい」、「海外への興味・関心が高まった」、「将来、英語を使う仕事ができたら良いと思った」などのご意見を多くいただきました。

次のページ、自由意見と感想です。

この中では、「来年も参加できるならば、なるべく英語を覚えておいてそれを言えるようにしたい」、「英語が苦手という気持ちが減りました」、「友達できて最高でした」、「とても充実した日々でした」というようなご意見をいただいております。

また、参加者の保護者からのお礼が届きまして、その中では、「同年代のほかの中学校の友達できて意気投合したと子どもが申しておりました」というお話をいただきました。

また、「他国の方と話す面白さに目覚めて、スカイプで学べるマンツーマンの英会話を始めた」というようなお話もいただいたところでございます。

以上のことから、冒頭でお話いたしました英語村事業の当初の目的は達成できたものと考えておりますが、今後、事業を継続するときは、受託事業者のヒアリングなどもあわせて検証していき、より良い事業の運営を目指していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 2つの事業ともに、事後のアンケートで子どもたちに大きな変化が見られたことは大変すばらしいと思えました。

英語村については、私も実際に小学生コースと中学生のレベルアップコースの初日と最終日を拝見しましたが、アンケートに書かれていたような変化が、目で見て確認することができるくらい、子どもたちの様子が変わって、とても生き生きと活動していました。身近な環境で英語が学べるということは大変良かったなと思えます。

英語村については、アンケートの中で、「外国の方と英語をこんなにたくさんしゃべったのは初めてです」というような声が多かったと思えますが、身近なところで外国の方とたくさん話ができるという、良い機会を設定してあげられたのではないかと思います。

また、日程の設定について、中学生の一般コース、まなぼーと大原のところで、8月17日、18日の希望が少なかったということで、これは、やはり成増で実施しているレベルアップコースと日にちが重なっていたせいなのかなと思えました。

もし来年度以降、このような事業を続けて実施できるのであれば、スケジュールの調整などをしっかり行って、できるだけ多くの方に参加していただきたいと思いました。

また、海外派遣事業について、アンケートを拝見しまして、皆さん、結果的には外国に対する興味や、英語に対する興味がすごく伸びているのが大変良いと思ったのですが、最初の「将来、国際交流や文化交流にかかわることについて」という質問に対し、「興味・関心がない」と答えた子どもが2人、それと、「英語について」という質問に対し、「英語が嫌いである」と答えた子どもが1人いて、全体の23人中でこの割合というのは、少し気になるところでありました。

選考を進める中で、子どもたちのやる気や意欲を中心に考えていただいていたとは思いますが、また、考え方によっては、このような子が海外派遣事業を経験したことで変わったというところも素晴らしいことだとは思いますが、今後、この事業が継続して行われるようになるときには、子どもたちのやる気をどのように受けとめて捉えていくのかというところが、課題となるのかなと少し感じました。

教 育 長 ありがとうございます。
 いかがでしょうか。

青 木 委 員 結構な取組だと思います。スタートアップとしては十分な結果が出ているのではないかと考えております。

高野委員が言ったようなところを、今後の取組を含めて、ますます進めていただければと思います。どうもありがとうございました。

教 育 長 私からですが、今回、初めての企画ということもあって、今後継続していくことを個人的には強く望んでいるところですが、例えば中学生海外派遣事業に参加した23名の子どもたちのその後を、追いかけてほしいと思っています。

この子どもたちが帰国して、各学校の文化祭等で発表をする、そうしたことがきちんと行われることによって、この子どもたちがどのように変化しているのか、さらにはこの子どもたちを英語検定や、あるいは高校、あるいは大学、さらには就職、そんなところまで追いかけていっていただいて、彼らが今回アンケートで答えたことがどのくらい実現していくのか、そして、彼らにまた後輩である板橋の中学生に自分の生きざまのようなものをフィードバックしてもらい、そうした循環をつくり出していくことができると、とてもすてきなことになるのではないかと考えています。

また、英語村との関係では、来年の秋以降、東京都が、いわゆる英語村的な「TOKYO GLOBAL GATEWAY」をつくっていくわけですが、私は、板橋の今回実施した英語村が、板橋の子どもたちにとって身近なところにあるということは非常に大きな魅力ではないかと考えています。

このような場所があることが、子どもたちが英語というものに近づいていくと

ということにおいては、これはさらに発展という形なのですが、板橋に住んでいる、あるいは板橋で働いている外国の方々が集まれるサロンのようなものがある、そこに行く外国の方がいて、英語を話すことができ、外国の文化に触れることができるような、そうしたものが先々セッティングできると、さらにこうした機会が増えていくのかなということを感じました。今回の子どもたちの意識調査のアンケートから見ても、やはりそのようなものがあれば子どもたちは集まって来るし、そのような機会を教育委員会や、区が協働しながらつくり上げていくということも視野に入れてもいいのかなということを感じました。

あとは、それぞれ、教育総務課と生涯学習課が本当に良い企画を実施してくださったので、早い時期にこの2つの事業の評価等をしていただいて、どのようなところが良かったのか、あるいはどのようなところは改善する余地があるのかといったところも、ぜひ整理していただければと思います。

よろしく願いいたします。

青木委員 今、教育長のお話を伺っていて少し思い浮かんだのですが、海外派遣に行っていた子どもたちに、来年度、そこで体験をしたことを後輩たちといいますか、次に伝えるような、メンタリングのようなもの、来年度に向けてという話をするのか、何か、そういう形で継続してご支援をいただくと、また次の形になるのかなと思いますので、その辺りも、次年度に向けて、もし検討の余地があるようでしたら考えていただきたいと思います。

以上です。

教育長 よろしく願いいたします。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

3. 退任学校医等への感謝状贈呈について

(学-1・学務課)

教育長 それでは、報告3「退任学校医等への感謝状贈呈」につきまして、学務課長から報告願います。

学務課長 それでは、「学-1」の資料をご覧ください。

「板橋区学校保健事業にかかる感謝状贈呈要綱」に基づく、感謝状贈呈の対象者の要件は2つありまして、1つ目が、学校医、学校歯科医、学校薬剤師で、前年度、又は当該年度途中で退職した者。

2つ目が、学校医会、学校歯科医会、学校薬剤師会の会長又は副会長の職にある者で、前年度、又は当該年度在職中にその職を辞した者でございます。

このたび、資料に記載のとおり、学校医会の副会長が副会長職を退任されまし

たので、感謝状を贈呈させていただきます。なお、学校医は継続していただいております。

簡単ですが、ご説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。
よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

5. 3・4歳児向け生活習慣チェックシートの配布について

(地－1・地域教育力推進課)

教 育 長 それでは、報告5「3・4歳児向け生活習慣チェックシートの配布」につきまして、地域教育力推進課長から報告願います。

地域教育力推進課長 それでは、ご報告いたします。

チェックシートにつきましては、教育委員の皆様の意見もお伺いし、この4月からモデル園を選定いたしまして試験的に活用していただき、チェックシートの評価や今後についてのアンケートを実施いたしまして、それを踏まえて、内容を検討いたしました。この後、内容を改定したものでチェックシートを本格実施したいと考えております。

資料の2ページ目に、チェックシートを使つての感想などが書かれておりますが、基本的には「活用して良かった」など、好意的な感想が多かったと考えています。

また、チェック項目についても、特にプレッシャーを感じるほど無理なものになるというような感想はありませんでした。

今回の修正につきましては、おやくそくの表記に合わせたチェックシートの修正をいたしました。

変更点につきましては、特に毎日チェックを実施するにはA4判のシートでは少し用紙が小さいということで、新しいシートはA3判に変更する予定でございます。

また、表紙部分の3歳児の5つのおやくそく、また、4歳児の7つのおやくそくとチェックシートの項目が少し合っていないものがございましたので、5つのおやくそく、7つのおやくそくと裏面のチェックシートの項目を合わせて、表現を一部変更しております。

3歳児のチェックシートでは、「あさにといれにいく」としていたものを、表紙の面の方には、「③おしっこ・うんち はトイレでしょう！」とあるように、「おしっこうんちはといれです」という項目に変更しております。

また、「④おうちのひととにこにこごあいさつ！」に対応するチェックシートの項目がありませんでしたので、「にこにこ ごあいさつ」の項目を追加してお

ります。

また、「大人もチェック」欄では、「朝トイレに行くよう伝える」というのを、「トイレに行くよう伝える」と変更した上で、「あいさつ の声掛けをする」という項目を追加しております。

4歳児のチェックシートにつきましても、おやくそく④の「みんなとなかよくなれるよ！げんきにあいさつしよう！」に対応するチェック項目がございませんでしたので、「げんきに あいさつをする」という項目を追加しております。

また、「からだをうごかしてあそぶ」というものを「からだをうごかして いっぱいあそぶ」に変更しました。また、内容が重複していたため、「ともだちといっしょにあそぶ」という項目を削除いたしまして、おやくそく⑦の「ともだちやかぞくとたくさんおはなししよう！」のチェック項目がございませんでしたので、「たくさん おはなしをする」という項目を追加しております。

また、「はしをつかってごはんを食べる」という項目につきましては、保育園では5歳児からおはしを使うことに取り組んでいるということでございましたので、4歳児には少し難しいということで、削除いたしました。

この後は幼稚園、保育園の3歳児・4歳児分を配布して、ご利用を促していきたいと考えております。

また、児童館で、乳幼児を対象とした事業実施の際にこのチェックシートの活用ですとか、生活習慣について保護者向けに意識づけをしてもらうということを考えているところでございます。

説明は以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 チェック項目について、保育園などからお話を伺って、実態に即した内容に変更されたことは大変良かったと思います。

私は、今回、このシートを見て、「保護者のみなさまへ」というところで、育児の相談を区立の保育園全園で行っているということ、初めて知りました。

そうした情報を自分自身知らなかったもので、調べてみましたら、児童館でも保育相談ということを実施されているようなので、保育園に通園している方以外の、幼稚園や児童館に行っている方については、わざわざ保育園に保育相談に行くよりも、児童館の方が身近なのかなと、相談に行くにしてもハードルが低いのかなと、自分自身の子どもが保育園通園ではなかったのが感じました。そうしたことから、児童館についても、保育相談を実施しているということを知らせる必要があるのではないかと思います。

また、ここに記載されている、子ども家庭支援センター、各健康福祉センターなどでの相談については、色々と相談箇所がたくさん出てきていて、どこに相談したら良いのか、これを見たときに迷うのかなとも思いましたので、今後、修正していく機会があれば、先ほどの児童館の件を盛り込んでいただくことも含めて、相談に行きやすい場所が分かるような形で整理していただくとうまいのかなと思

ました。

地域教育力推進課長 児童館の相談窓口を記載に加えることは可能かと思しますので、その辺りの文面などは考えさせていただき、追加させていただきます。

高野委員 お願いします。

教育長 よろしいでしょうか。
こちらの印刷はカラーということになりますか。

地域教育力推進課長 今年度は庁内印刷で行い、色の付いた紙に印刷させていただく予定です。

教育長 小さい子ども向けのため、色というものがとても大事なかなと思しますので、予算との関係もあるとは思いますが、カラー印刷の検討も、ぜひよろしく願います。

○報告事項

6. 「第24回いたばし国際絵本翻訳大賞中学生部門」の募集及び「第23回いたばし国際絵本翻訳大賞」出版絵本の配付について

(図-1・中央図書館)

教育長 それでは、報告6「第24回いたばし国際絵本翻訳大賞中学生部門」の募集及び「第23回いたばし国際絵本翻訳大賞」出版絵本の配付につきまして、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 資料「図-1」をご覧ください。

はじめに、「第24回いたばし国際絵本翻訳大賞中学生部門」の募集について、ご説明いたします。

例年と同様に、区内の中学生を対象といたしまして、英語の絵本の翻訳を通じて国際理解を深め、語学力や表現力の向上を目的といたしまして、第24回いたばし国際絵本翻訳大賞と同じ課題絵本の翻訳作品を募集いたします。

課題絵本は、募集作品課題絵本にありますように「The Journey」で、一般の部の半分の文章を課題の範囲として指定しております。

後ほど、課題絵本と翻訳文のコピーを各中学校に配布いたしまして、募集のご案内をさせていただきます。

また、先日、総合教育会議におきまして、一般の部の大賞受賞者、この後、ご案内いたします「こらっ、どろぼう！」の、なかだゆきさんと「こどもってね…」の、みやがわえりこさん、こちらの受賞式のスピーチが非常に優れていて、翻訳に対する熱い思い、これまでの苦労、体験談等をお話しいただきましたので、その内容を中学生にお伝えすることが、意識啓発や、今後のキャリア教育に良いのではないかという貴重なご意見を高野委員からいただきましたので、ただいま、

このお2人の、中学生に向けたコメントを作成しているところで、募集案内に掲載する予定で準備を進めているところです。中学生の部の募集の締め切りにつきましては、1月の冬休み明けということで予定してございます。

選考結果につきましては、2月の教育委員会でご報告させていただく予定です。

なお、表彰式は昨年度から開始いたしました「いたばし子ども絵本展」の会場内で実施する予定で、区役所1階において、3月上旬に予定してございます。

多くの中学生に応募していただくことを期待しております。

続きまして、「第23回いたばし国際絵本翻訳大賞」出版絵本の配付について、ご説明いたします。

昨年度実施いたしました翻訳大賞の日本語の作品が8月に出版されました。

こちらを小中学校に1冊ずつ配付いたします。

説明は、以上でございます。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高 野 委 員 中学生向けにメッセージを書いていただけるということで、大変良かったなと思っております。

それと、あともう2点あります。この表彰式を「いたばし子ども絵本展」と一緒に行うということは、昨年、絵本展に、自分たちで絵本をつくった志村第六小学校の子どもたちが何人か来ていたのですが、今回も、子どもたちが作った絵本も同時に展示するという事なのではないでしょうか。

また、実際に可能かどうかは分からないのですが、中学生の部門で受賞した生徒たちに、一般部門の8月の表彰式のときに、招待状のようなものを送って任意で参加してもらうことができるのかどうか。また、もし参加できたら、その場で、中学生の受賞者を、当日、皆さんにご紹介いただけたら良いなと考えていますが、その2点、いかがでしょうか。

中央図書館長 まず、1点目です。「いたばし子ども絵本展」につきましては、今年度は、絵本づくりワークショップを小学校3校で実施する予定ですので、昨年度より多くの作品が展示できるような形で準備したいと思っております。

また、中学生の部門で、今後、受賞された方には、ぜひ、来年度の8月の国際絵本翻訳大賞表彰式にご招待をさせていただきたいと思っております。

また、懇談などの機会も、ぜひ設けられるような形で準備を考えていきたいと思っております。

教 育 長 今年も表彰式に参列いただきましたが、その席で、全国から応募があるということの喜びとともに、この企画が、実は日本の中でも非常に価値があるものだという事を色々な方々がおっしゃっていました。そのことを、我々はもっと知って、自覚して、区民の皆様にもお伝えするという、そういう努力が必要なのかなということを感じました。

実は、先ほどの海外派遣や英語村ともリンクしますし、この企画自体が、板橋の子どもたちの英語力というものをつくっていくために、非常に大きな意味づけを持つのではないかなと思うと同時に、「絵本のまち板橋」を具現化していくための1つの戦略にもなり得るのかなと思っています。

少し語弊があるかもしれませんが、例えば、これはもう既に知っていただいているのかもしれませんが、中学校の教育研究会の英語部とつなげていただいて、こういうものがあるということ、まず、中学生に知ってもらおう。

さらには、例えば英語の時間を1時間くらい使って、こういうものができる、というようなことをカリキュラムの中に位置づけてもらおうと、板橋の特色ある教育活動の1つになるのかなと思っています。

「絵本のまち板橋」では一体何をしていくのかというと、先ほど出たように、絵本づくり、これはワークショップを昨年からはじめていただいています、と同時に、こうした翻訳ということも、例えば板橋の中学生はこうしたものに積極的に参加しているということも1つ大きなものにつながるのかなというところで、要は、この企画自体が英語教育と「絵本のまち板橋」という非常につながりのあるものであるということも教育委員会として意識して進めていくことが必要かなと、特に、今年の授賞式に出て感じたところです。

よろしいでしょうか。

(はい)

○報告事項

7. 中学生向け読書通帳の作成及び配布について

(図-2・中央図書館)

教 育 長 　　では、報告7「中学生向け読書通帳の作成及び配布について」、中央図書館長から報告願います。

中央図書館長 　資料「図-2」をご覧ください。

中学生向け読書通帳の作成及び配布について、ご説明いたします。

読んだ本の書名や感想を記入することで、読書の記録の見える化と、読書の習慣づけを図り、もって読書率の向上を図り、さらには学力向上への取組の一助とすることを目的とした読書通帳の、中学生向けのものを作成しております。

読書通帳の形式・内容につきましては、板橋区中学校教育研究会の国語部の先生方と検討会を持ち、検討を進めまして、個々の中学生の読書スタイルに合わせた対応と、活用しやすいものとするため、冊子型といたしました。

38ページ、中綴じの冊子となります。

資料の2ページ目に、別紙1として、表紙図案を掲載してございます。こちらは加賀中学校の生徒に書いていただいたものです。

次ページに、別紙2として、中学生に向けたメッセージ、また、家庭読書の日の紹介を掲載してございます。

続いて、別紙3として、1冊読み終わった本を記載するページで、100冊分を、今回、この冊子にまとめました。

続いて、別紙4として、こちらは1冊読み終わるまでの本について、途中までのページを記載しておくページでございまして、例えば朝読書のときなどに、その日に読んだ箇所までメモして、次の日に読むときにスムーズにつながるような様式となっております。

続いて、別紙5として、皆様にお勧めしたい本ということで、これも中学校の先生方と協議しまして挙げさせていただきました。こちらは、毎年、改訂する予定です。

最後に、別紙6として、こちらが裏表紙になります。これも生徒によるデザインです。

今年度につきましては、区立中学校の全生徒、また、来年度以降は、新中学1年生と転入生に配布する予定です。

中学生の皆様の読書推進につながりますように、各学校での積極的な活動を期待するところでございます。

説明は以上です。

教 育 長 質疑、意見等がございましたら、ご発言ください。

高野委員 別紙6の「家庭読書の日」の件で少し質問しますが、毎月23日が家庭読書の日ということでずっと取り組んでいただいておりますが、当初はその取組が分かりやすくなかったということでしたが、今では、学校だよりなどを拝見すると、23日のところに家庭読書の日というように書き込んでくださっている学校、呼びかけている学校も増えてきたなと思っております。

この家庭読書の日を「うちどく」というように言って、特別な活動をしているということ、最近になって知りました。

家庭読書の日について、板橋区ではどのように始まったのかという経緯、また、中学生については、なかなか家庭読書の活動というのは難しいのかなと思っておりますが、小学生については、親子で同じ本を読んで感想を述べあってノートをついたり、あとは、家庭文庫をつくったりという活動を各ご家庭にご紹介していくということも、家庭読書を進めていく手がかりになるのかなと考えておりますが、いかがでしょうか。

中央図書館長 資料の3ページ目、別紙2で、「中学生のみなさんへ」の最後から2段目に、「4月23日は「家庭読書の日」です」と記載しています。

「家庭読書の日」は、平成13年に定められた「子どもの読書活動の推進に関する法律」には、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために」ということで定められております。

板橋区立図書館では、これを受けまして、現在、「子ども読書活動推進計画2020」の第2期計画を策定したところですが、それに先立つ平成22年度から

27年度までの「第1期子ども読書活動推進計画」の中で、「家庭読書の日」を、板橋区では毎月23日ということで定めさせていただきました。

ご家庭での読書活動の普及を意識していただき、家族みんなで読書することでコミュニケーションを図って、また、本を好きになり、読書活動を推進することを願っているものです。

この家庭読書の日の活動は、全国的に展開されていて、NPOや、東京都でも行っておりますが、様々な自治体で、教育委員会も含めて取り組んでおります。

絵本を通じた家庭読書からはじめ、また成長過程に応じて様々な形態で、ご家庭では本に親しむ時間をとって、コミュニケーションを持つということが重要になっていると考えてございます。中学校では、今般作成しました読書通帳や、また、それを活用し、ご家庭にお持ち帰りいただいて、色々と本の内容について話し合いをしてもらうことや、ビブリオバトルなどの実施により、成長過程におきまして、本をご家庭でも読んでいただくという活動を広げるために、このような日を今後もPRをしていきたいと思っておりますし、また学校の先生方と連携して取組を進めていければと思っております。

教 育 長 よろしいでしょうか。

(はい)

教 育 長 次に、教育委員会次第にはございませんが、追加報告事項はありますか。

(なし)

教 育 長 それでは、以上をもちまして本日の教育委員会を終了いたします。
ありがとうございました。

午前 10時 47分 閉会